
第1回 SPARC Japan セミナー2019 開催のご案内

この度、NII 主催、第1回 SPARC Japan セミナー2019 の概略とスケジュールが決まりましたので、是非ご参加いただきたく、ご案内いたします。

今回は、2018 年度第4回セミナーに引き続き人文社会系分野におけるオープンサイエンスをテーマとし、オープンな研究活動が既に展開されている取組に注目します。事例として、研究者による当該分野の基盤的データの構築と普及や、新たな研究データ作成や研究基盤の構築を目指す市民科学の活動を取り上げ、また様々なかたちで研究データを外部へ繋いでいく役割を担う URA の実践についても紹介し、人文社会系分野のオープンサイエンスを幅広く安定的に展開するためのヒントを共有できる企画としたいと考えています。

申込はこちら：

<http://www.nii.ac.jp/sparc/event/2019/20191024.html>

申込開始：2019 年 10 月 4 日(金) 15 時

申込期限：2019 年 10 月 21 日(月)

定 員：70 名

・今回は動画中継を行う予定です。詳細は当日までに、Web サイトにてお知らせします。なお会場の通信環境によっては、中継中断の可能性もございますのでご了承ください。

・今回の定員は 70 名です。

申込期限の 10/21(月)より前に受付を締め切る場合がございますのでご了承ください。締め切り後に参加ご希望の方は、恐縮ですが当日の動画中継をご利用いただくとともに、終了後に当サイトで公開する資料等をご参照ください。

第1回 SPARC Japan セミナー2019

「人文社会系分野におけるオープンサイエンス ー実践に向けてー」

■日 時：2019 年 10 月 24 日(木) 13:30-17:00

■会場：国立情報学研究所 12階 1208・1210会議室

<http://www.nii.ac.jp/about/access/>

■セミナーサイト：

<https://www.nii.ac.jp/sparc/event/2019/20191024.html>

■講師（登壇順，敬称略）：

小木曾 智信（国立国語研究所）

加納 靖之（東京大学地震研究所/地震火山史料連携研究機構）

小野 英理（京都大学情報環境機構 IT企画室）

中村 美里（東京大学附属図書館）

鈴木 親彦（国立情報学研究所/人文学オープンデータ共同利用センター）

■その他：

動画中継予定

■概要：

近年、オープンサイエンスの推進が学术界全体に求められている。自然科学系分野を中心とした学術論文のオープンアクセス化は言うまでもなく、特に公的資金による研究活動においては、分野を問わず、論文のエビデンスとなる研究データを共有し、利活用していくことが推奨されている。また、その研究データの管理・保存体制の在り方や人材の育成などについても種々検討されているところである。

人文社会系分野では、こういったオープンサイエンスに関わる議論が必ずしも幅広く行われているわけではない。しかし、今後は他分野と同様、むしろそれ以上にオープン化を巡る動きが重要になると当セミナーWGでは考え、これまでも人文社会系分野に焦点をあてたセミナーを開催してきた>(*1)

特に2018年度はオープンサイエンスの基盤となり得るテーマとして、データ構築、図書、雑誌（紀要）を採りあげ、図書館及び出版者からの参加者を多く集めた。そこで本年度は、より実践的なところに焦点を移し、オープンな研究活動が既に展開されている取組に注目する。まずその候補として、言語分析の基礎資料として自ら構築したコーパスを広く研究者に提供し、また関連セミナーや利用者講習会等を各地で開催するなど、基盤データを用いた研究活動振興において実績のある国立国語研究所(*2)が挙げられる。次に、研究者と市民が協働し、新たな研究データ作成や研究基盤の構築を目指す市民科学に注目する。

その一つとして、地震史料の翻刻テキストデータ作成において多大な実績が報告されている「みんなで翻刻」(*3)が挙げられる。このような有力かつ先進的な事例を共有することで、参加者自らがオープンサイエンス活動に主体的に関わっていこうと考えられるような企画としたい。さらに、様々なかたちで研究データを外部へ繋いでいく役割を担いうる URA の実践についても採りあげ、「研究機関によるデータ基盤構築」と「市民科学」の間を繋ぐような取組を紹介いただき、全体的に人文社会系分野のオープンサイエンスを幅広く安定的に展開するためのヒントを共有できる企画としたい。

また、オープンサイエンスと言うと研究者のものと思われがちな面があるが、そこに関わっているのは研究者だけではない。本セミナーでも、図書館職員や大学職員、出版関係者など、この潮流に関わりを持つ人に多数参加いただき、各々の立場から「オープンサイエンスの実践」について具体的に考える契機となるセミナーとしたい。

(*1) 2013 年度「人社系オープンアクセスの現在」

2015 年度「学術情報のあり方 ―人社系の研究評価を中心に―」

2018 年度「人文社会系分野におけるオープンサイエンス ―その課題解決に向けて―」

(*2) <https://www.ninjal.ac.jp/>

(*3) <https://honkoku.org/>